

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.5</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.8</b>	0.15	-	-			<b>2.8</b>
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1.2 遮音		<b>3.6</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能	T-2を確保している。	5.0	0.35	-	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.28	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.19	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.19	-	-			
1.3 吸音		<b>1.0</b>	0.20	-	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.9</b>	0.35	-	-			<b>2.9</b>
2.1 室温制御		<b>2.9</b>	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.58	-	-			
2 外皮性能		3.0	0.38	-	-			
3 ゾーン別制御性		1.0	0.04	◊	-			
2.2 湿度制御		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.7</b>	0.25	-	-			<b>2.7</b>
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30	-	-			
1 昼光率		1.0	0.60	-	-			
2 方位別開口		◊	-	◊	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-			
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1 昼光制御		3.0	1.00	-	-			
3.3 照度	全般照明で主要な室の照度は500ルクスを確保。	<b>4.0</b>	0.15	-	-			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	-	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.4</b>	0.25	-	-			<b>4.4</b>
4.1 発生源対策		<b>5.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の材料を全面的に採用。トルエン、キシレンの濃度測定	5.0	1.00	-	-			
4.2 換気		<b>3.6</b>	0.30	-	-			
1 換気量	居室の換気量は、人員×30m <sup>3</sup> /h以上を確保している。	4.0	0.34	-	-			
2 自然換気性能	主要居室は室面積の1/25以上の自然換気有効開口を確保。	4.0	0.31	-	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.34	-	-			
4.3 運用管理		<b>4.0</b>	0.20	◊	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.47	-	-			
2 喫煙の制御	建物内を禁煙としている。	5.0	0.53	◊	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-			<b>3.9</b>
<b>1 機能性</b>		<b>4.2</b>	0.40	-	-			<b>4.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		◊	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	1.00	◊	-			
3 バリアフリー計画		<b>5.0</b>	0.30	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>5.0</b>	0.47	-	-			
1 広さ感・景観	実験室の天井高は平均3.2m以上である。	5.0	0.47	-	-			
2 リフレッシュスペース		◊	-	◊	-			
3 内装計画	インテリアパースによる検討を行っている。	5.0	0.53	-	-			
1.3 維持管理		<b>5.0</b>	0.30	◊	-			
1 維持管理に配慮した設計	清掃しやすい仕上げ材を採用。(長尺シート、EP-G塗装)	5.0	0.50	◊	-			
2 維持管理用機能の確保	各トイレにSKを設けている。	5.0	0.50	◊	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.6</b>	0.30	◊	-			<b>3.6</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.8</b>	0.50	◊	-			
1 耐震性	建築基準法に定められた25%増の耐震性能を有する。	4.0	0.80	◊	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	◊	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.6</b>	0.30	◊	-			
1 躯体材料の耐用年数	十分に板厚の厚い鉄骨部材を用いており、品確法鉄骨造評価方法基準等級2相当の基準を満たす。	4.0	0.20	◊	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	◊	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	◊	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	◊	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	冷温水 D(SGP)、給水 B(VLP)、実験排水 B(VP)	5.0	0.20	◊	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	◊	-			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	熱源エネルギーは電気・ガスとし、二重化を行っている。	3.1	0.20	-	-	3.9
	2	給排水・衛生設備		4.9	0.20			
	3	電気設備		2.0	0.20			
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
	5	通信・情報設備		3.0	0.20			
	5	通信・情報設備		3.0	0.20			
3 対応性・更新性			3.9	0.30	-	-	3.9	
3.1 空間のゆとり			4.6	0.28	-	-	3.5	
1	階高のゆとり	階高4.7mまたは4.5mを確保	5.0	0.60	-	-		
2	空間の形状・自由さ	5階の壁長さ比率0.149	4.0	0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.28	-	-	3.5	
3.3 設備の更新性			2.8	0.44	-	-		
1	空調配管の更新性		2.0	0.20	-	-	3.3	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5	
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			4.0	0.50	-	-	3.5	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.9	0.20	-	-	2.9	
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			3.3	0.50	-	-	3.3	
集合住宅以外の評価(3a.3b)			3.3	1.00	-	-	3.5	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-		
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5	
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	3.5	
4.1	モニタリング	電気:空調動力、コンセント・照明、ガス:熱源、給湯が把握可能	4.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価			-	-	-	-	3.6	
4.1	モニタリング		-	-	-	-		
4.2	運用管理体制		-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6	
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	3.8	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	3.8	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8	
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	3.2	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	3.3	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	3.6	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	3.2	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-		
1	消火剤		-	-	-	-	3.3	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-		
3	冷媒		3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1	
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3	
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	3.3	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.2	0.25	-	-	3.3	
1	雨水排水負荷低減	指導された処理量以上の雨水を宅地内処理している。	4.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	3.3	
3	交通負荷抑制	許可がある車輛のみの駐車とし、適正な駐車スペースを維持している。	5.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制	建物内にゴミステーションを配置。有価物の回収、ビン・缶の減容化を啓蒙。	5.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	3.3	
1	騒音		3.0	0.50	-	-		
2	振動		3.0	0.50	-	-	3.3	
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	3.3	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	3.3	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			4.7	0.20	-	-	3.3	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外広告の設置なし。	5.0	0.70	-	-		
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	ガラス面を透明とし、斜めや曲面としていない。目隠しパネルを設置。	4.0	0.30	-	-		